

1 スカイライン分析

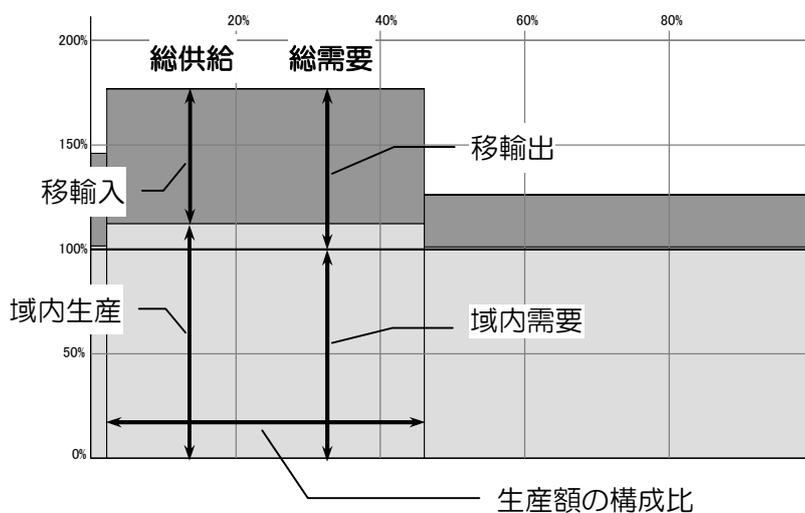
スカイライン分析とは、産業連関表からスカイラインチャート（スカイライングラフ、スカイラインマップとも呼ばれる。）を描くことにより地域ごとの産業構造や交易構造の特徴を把握するものである。ここでは、福島県及び各生活圏の平成12年産業連関表34部門表のスカイラインチャートを描くことにより各地域の特徴をみていきたい。

スカイラインチャートの縦軸は各産業部門の域内需要を1(100%)として、域内生産、移輸出、移輸入の比率をあらわしたものであり、各棒グラフの高さは総供給（総需要）をあらわしている。域内需要が縦軸の100%ラインの高さにあたり、100%ラインを超えている部分が移輸出をあらわしている。「域内需要+移輸出=総需要」であるので、グラフ全体の高さが各産業部門の総需要をあらわしている。また、「総需要=総供給」であり「総供給=域内生産+移輸入」であるので、棒グラフを2色に分けて、産業部門ごとの総供給に占める域内生産分と移輸入分をあらわしている。チャートの横軸は各産業部門の生産額構成比をあらわしており、棒グラフの幅が産業別生産額のウェイトをあらわしている。（第4-1-1図 参照）

棒グラフの高さが高くなるほどその部門の生産額が大きく、域外需要により移輸出されており、逆に棒グラフの高さが低く移輸入をあらわす部分が多いほどその産業部門の域内生産額が小さく、域外から移輸入していることになる。

また、棒グラフの幅が太くなるほど域内の総生産に占めるその部門のウェイトが高く、逆に幅が細いほどウェイトが低いことになる。

第4-1-1図 スカイラインチャートの例（平成12年福島県3部門表）

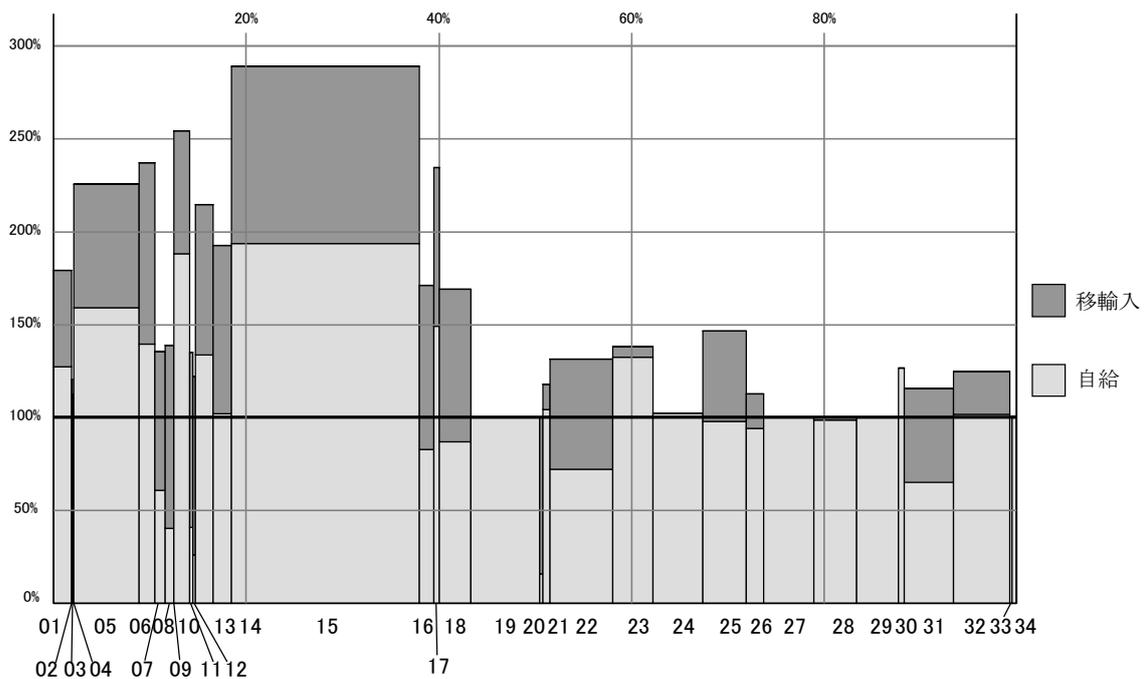


(1) 県北地域

県北地域のスカイラインチャートを見ると、第1、第2次産業と第3次産業の生産額のウェイトが約半分であることが読みとれる。最も目立っているのが15「電気機械」グラフであり、全体の約20%のウェイトを占めていて、域内需要額に対する生産額と移輸出額も最大である。次いで05「食料品」、19「建設」、22「商業」などの産業部門の生産額ウェイトが大きい。

グレーの移輸入部分が100%ラインを切っている産業部門は移輸入超過であり、07「パルプ・紙・木製品」、08「化学製品」、22「商業」、31「対事業所サービス」などの産業部門で移輸入超過割合が大きいことが読みとれる。

第4-1-2図 平成12年県北地域産業連関表34部門表スカイラインチャート



01 農業	02 林業	03 漁業	04 鉱業	05 食料品	06 繊維製品	07 パルプ・紙・木製品	08 化学製品
09 石油・石炭製品	10 窯業・土石製品	11 鉄鋼	12 非鉄金属	13 金属製品	14 一般機械	15 電気機械	16 輸送機械
17 精密機械	18 その他の製造工業製品	19 建設	20 電力・ガス・熱供給	21 水道・廃棄物処理	22 商業	23 金融・保険	24 不動産
25 運輸	26 通信・放送	27 公務	28 教育・研究	29 医療・保健・社会保障・介護	30 その他の公共サービス	31 対事業所サービス	32 対個人サービス
33 事務用品	34 分類不明						

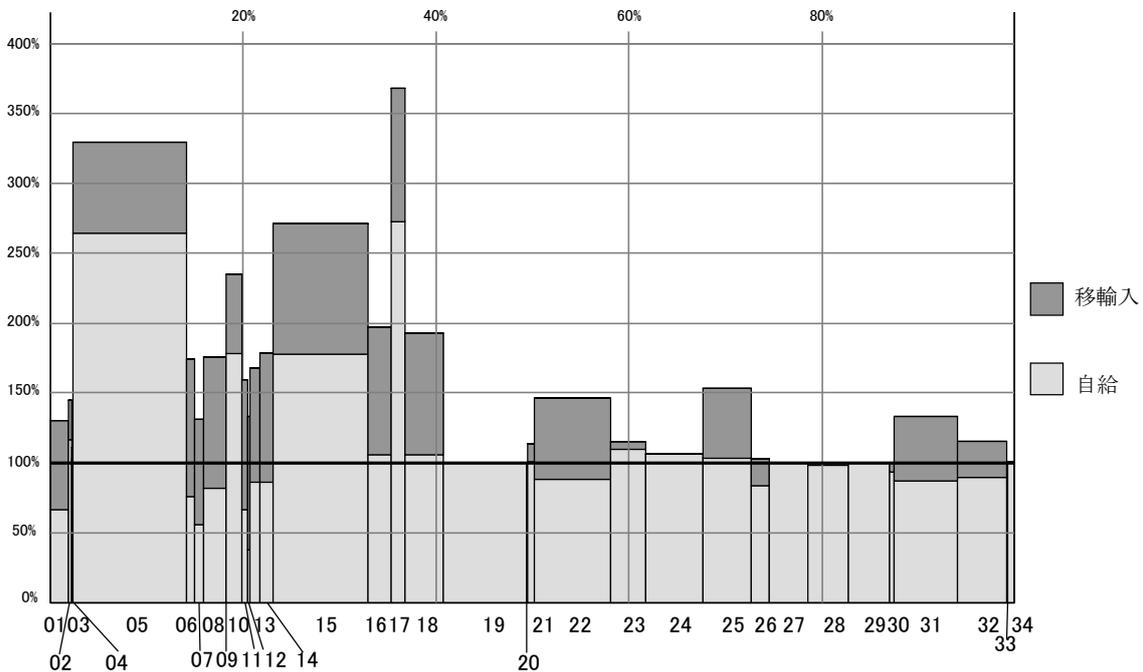
(2) 県中地域

県中地域のスカイラインチャートを見ると、第1、第2次産業と第3次産業の生産額のウェイトが約半分であることが読みとれる。

第2次産業では05「食料品」と15「電気機械」の生産額シェアが大きく、域内需要に対する生産額が最大なのは17「精密機械」となっている。05「食料品」、10「窯業・土石製品」、15「電気機械」、17「精密機械」で域内需要に対する生産額及び移輸出額の大きさが際立っている。07「パルプ・紙・木製品」、11「鉄鋼」などの産業部門でグレーの移輸入部分が100%を大きく割り込んでいることから、生産が少ないことが読みとれる。

第3次産業では22「商業」、31「対事業所サービス」の生産額シェアが大きく、24「不動産」、25「運輸」で生産が域内需要を上回っているのがわかる。第3次産業全体的にグレー部分が100%ラインを割っている部分が他の生活圏より小さく、域内需要額に近い額の生産が行われていることが読みとれる。

第4-1-3図 平成12年県中地域産業連関表34部門表スカイラインチャート



01 農業	02 林業	03 漁業	04 鉱業	05 食料品	06 繊維製品	07 パルプ・紙・木製品	08 化学製品
09 石油・石炭製品	10 窯業・土石製品	11 鉄鋼	12 非鉄金属	13 金属製品	14 一般機械	15 電気機械	16 輸送機械
17 精密機械	18 その他の製造工業製品	19 建設	20 電力・ガス・熱供給	21 水道・廃棄物処理	22 商業	23 金融・保険	24 不動産
25 運輸	26 通信・放送	27 公務	28 教育・研究	29 医療・保健・社会保障・介護	30 その他の公共サービス	31 対事業所サービス	32 対個人サービス
33 事務用品	34 分類不明						

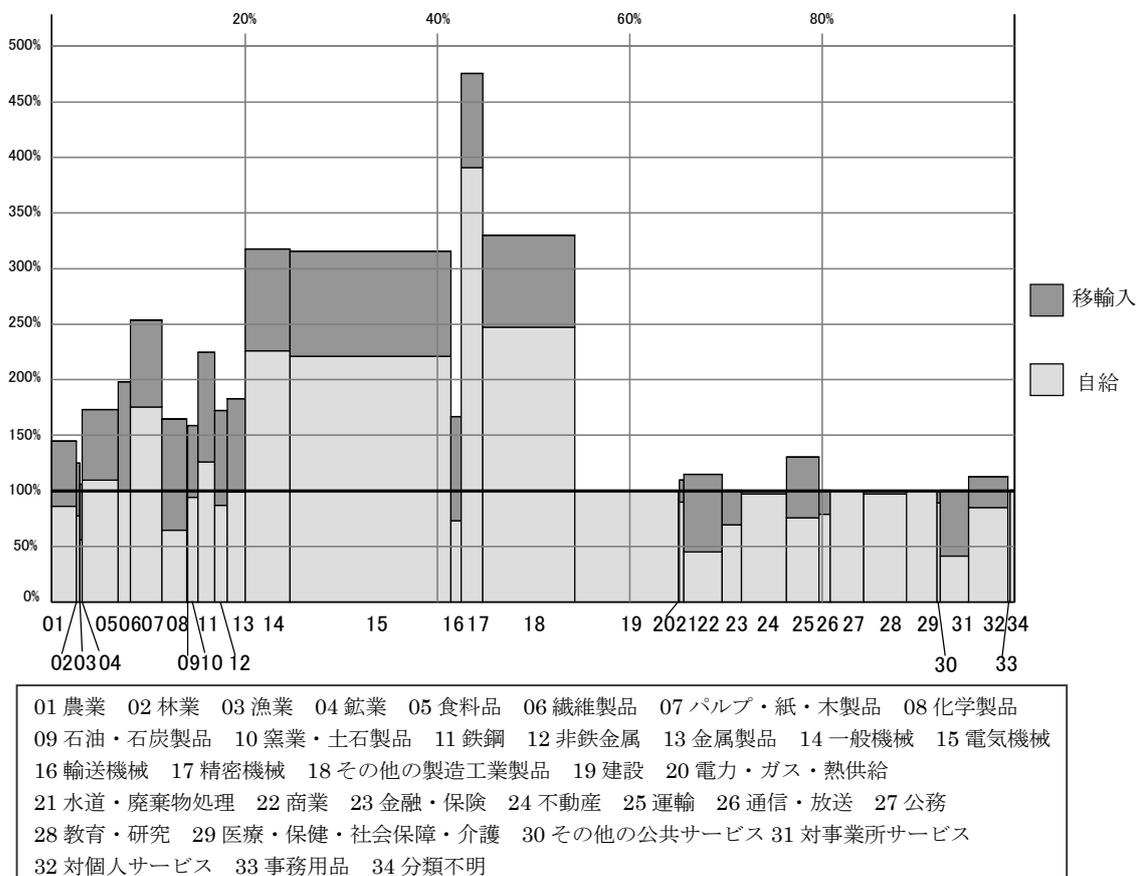
(3) 県南地域

県南地域のスカイラインチャートの横軸をみると、第2次産業の生産額ウエイトが非常に大きいことがみてとれる。15「電気機械」、18「その他の製造工業製品」、19「建設」のウエイトの大きさが目に付く。

縦軸をみると17「精密機械」が1番高く、14「一般機械」、15「電気機械」、18「その他の製造工業製品」などの産業部門でグラフの高さが目立っている。これらの産業部門はグレー部分の移輸入も大きく、域際交易が盛んであることも読みとることができる。製造業では08「化学製品」、16「輸送機械」などの産業部門で移輸入をあらわすグレー部分が100%ラインを大きく割り込んでおり、域外供給に依存していることがわかる。

第3次産業をみると22「商業」、25「運輸」、31「対事業所サービス」の移輸入部分が100%を大きく割り込んでいる。特に「商業」、「対事業所サービス」の生産は域内需要の50%にも満たなく、供給の大半を域外供給に依存していることを読みとることができる。

第4-1-4図 平成12年県南地域産業連関表34部門表スカイラインチャート

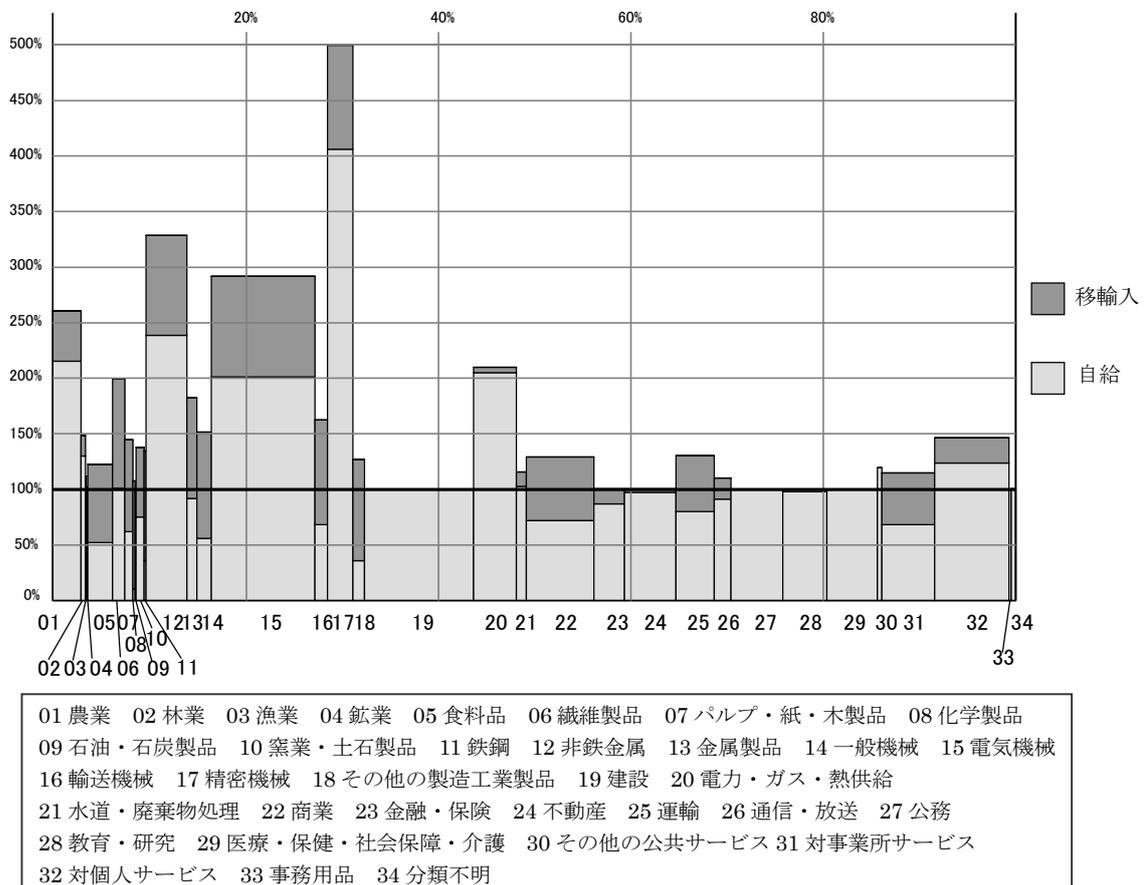


(4) 会津地域

会津地域のスカイラインチャートの横軸をみると、第3次産業の生産額ウエイトが他生活圏と比べて大きいことが読みとれる。第3次産業のなかでも 32「対個人サービス」の大きさが他生活圏と比較して大きく、移輸出の大きさも第3次産業のなかでとりわけ大きいことがみてとれる。

01「農業」、12「非鉄金属」、15「電気機械」、17「精密機械」、20「電力・ガス・熱供給」などの高さが際立ち、域内需要に対する生産が大きいことを読みとることができる。

第4-1-5図 平成12年会津地域産業連関表34部門表スカイラインチャート



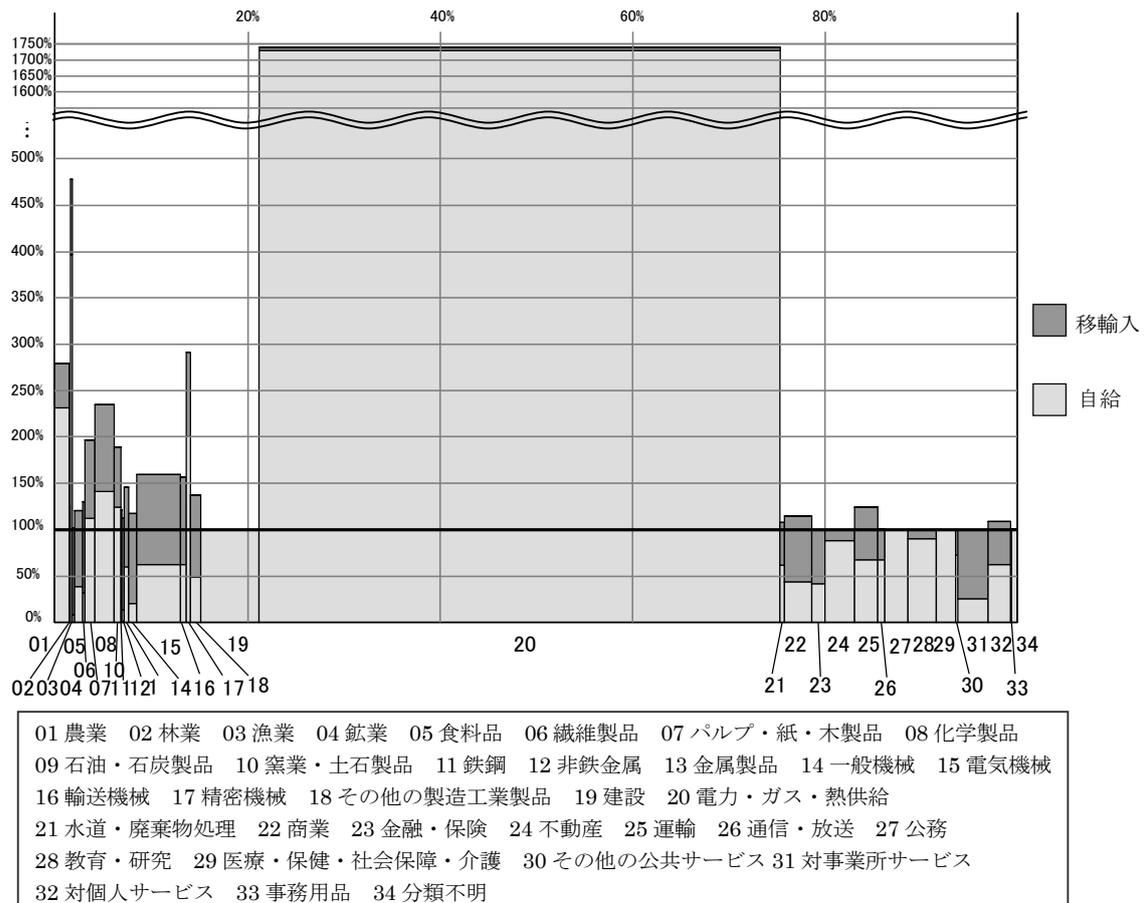
(5) 相双地域

相双地域のスカイラインチャートを見ると、20「電力・ガス・熱供給」が横軸、縦軸とも非常に大きく、その生産規模が他の産業部門を圧倒していることが分かる。

20「電力・ガス・熱供給」以外では、15「電気機械」、19「建設」などの産業部門のウエイトが大きく、グラフの高さがある 01「農業」、02「林業」、02「漁業」、17「精密機械」などの生産が域内需要に対し大きいことを読みとれる。

第3次産業ではほとんどの産業部門が域外供給に頼っていることがわかるが、特に 22「商業」、31「対事業所サービス」は生産が域内需要の半分に満たなく、その大半を域外供給に頼っていることを読みとることができる。

第 4-1-6 図 平成 12 年相双地域産業連関表 34 部門表スカイラインチャート



(6) いわき地域

いわき地域のスカイラインチャートをみると、県北、県中地域と同様に第3次産業のウェイトが約半分となっている。

07「パルプ・紙・木製品」、08「化学製品」、12「非鉄金属」、15「電気機械」、16「輸送機械」などの産業部門のグラフが目につき、それらの産業部門の生産は域内需要に比べ大きなものとなっている。

第3次産業では、25「運輸」と32「対個人サービス」など産業部門で生産が域内需要を上回っているのがみてとれる。一方、22「商業」や31「対事業所サービス」などの産業部門ではグレー部分が100%ラインを大きく割り込み、またグレー部分自体も大きいので、域外供給が供給にしめるウェイトが大きいことが読みとれる。

第4-1-7図 平成12年いわき地域産業連関表34部門表スカイラインチャート

